

B-16

情報教育ガイドラインの実施にかかわる
諸課題についての一考察

波多野和彦（江戸川大学）

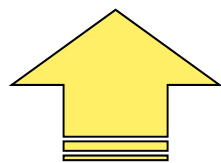
中村 佐里（江戸川大学）

三尾 忠男（早稲田大学）



経緯

(小規模な) **文科系大学**における
基礎教養教育、及び、**専門**教育での
情報教育の内容や方法

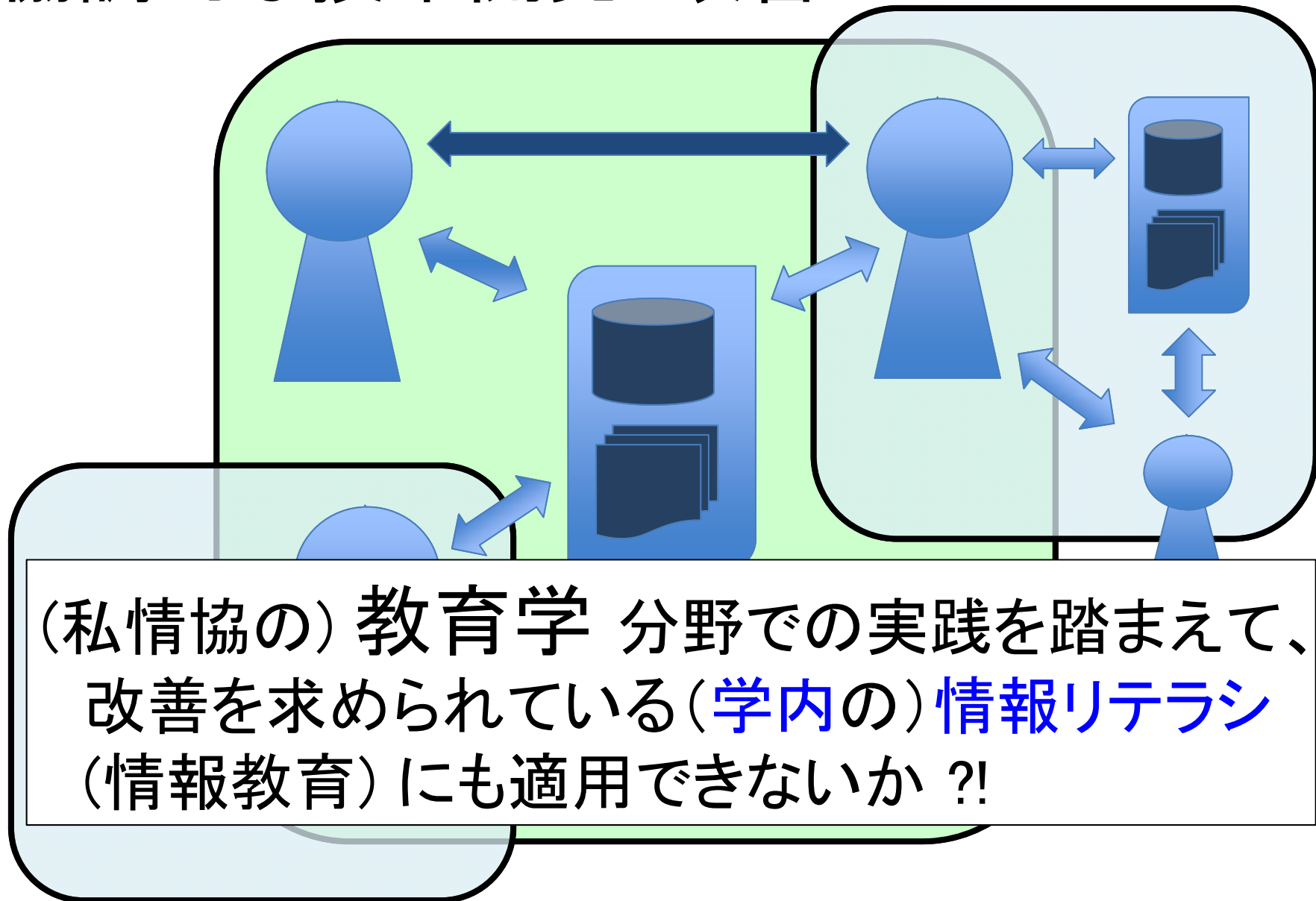


(高等学校段階での) **情報教育**に、及び、
教員の**養成**や**研修**

(教員養成という形での)
教育方法(教育工学)



協調的な授業開発・改善



(私情協の) 教育学 分野での実践を踏まえて、
改善を求められている(学内の)情報リテラシ
(情報教育)にも適用できないか ?!

幼保における情報やメディアの活用

【初年次】

【2年次】

【3年次】

情報リテラシー

メディア活用論Ⅰ
メディア活用論Ⅱ

教育方法学
観察と分析

こどもを対象とした
教材開発論
教材開発演習
放送番組論
情報測定評価論

諸般の事情により、設計者と異なる担当者

授業の流れ(情報リテラシー)

準備

活用する「情報」

> 表現

> 変換(加工)

> 整理・分析(量的)

> 収集(検索)

振り返り

表現(ことば)

> 著作権、知的財産権など

> 整理・分析(質的)

> 伝達 モデル化

> 仕組み

> 問題解決

知識・技能の確認

> 自律学習

一駒の授業 ➡

情報的な内容(3分の2)
操作技能練習(3分の1)

実際には ...

教職の課程認定では ...

授業計画（状況等により、内容の統合や順序の変更あり）

第1回：授業の進め方、学び方、自らの知識や技能等の確認、前提となる学習が不十分な場合の対処法、並びに、大学の情報環境を利用するための知識や技能、留意点など

第2回：「情報」とは何か（データ、情報、知識）

第3回：「情報」をより良く表現するために（図的な表現、モデル化）

第4回：「情報」をより良く扱うために（情報の変換）

第5回：量的な「情報」を整理・分析するために



対応する
操作技能

実際には ...

到達目標 に準拠した 評価
(学習項目さえも) を扱いきれない

機器操作の習得状況
学習項目

} 既存の学習に
引きずられる

教員も初年次で、学内システムに不慣れ?!
(NET環境, 履修登録, 出席確認, LMS等)

3年目でも状況の変化なし

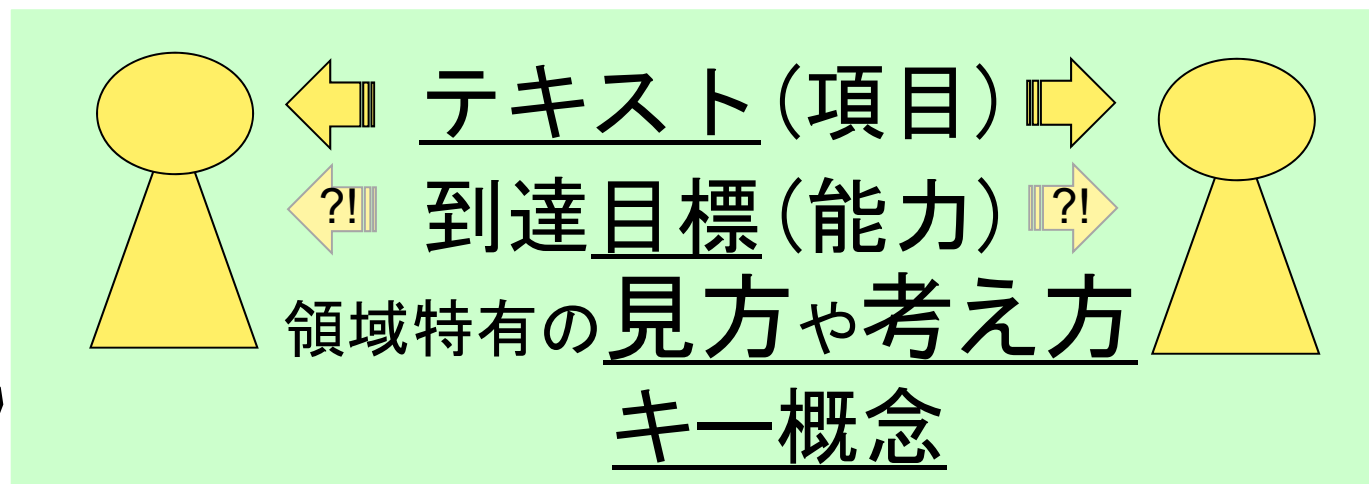


実際には ...

初等中等でも同じ状況

扱う項目 <- 目標 <- 見方・考え方

学習指導要領



(昨日の)分科会D において

私情協による(情報リテラシー教育の)ガイドライン

機器操作の教育ではなく

→ 問題を発見し、解決する過程を学ぶ

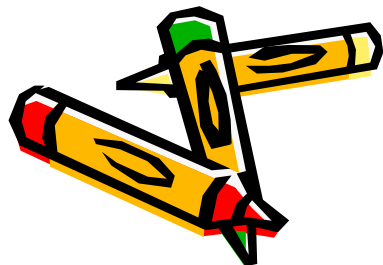
初年次(基礎教養段階)だけではなく

→ 卒業時まで(分野共通&専門領域)

どう評価? → ルーブリック

どう実現? → 組織的な取り組み

専門分野への橋渡しは?



情報リテラシー（到達目標） ～ 私情協

問題を発見し、目標を設定した上で解決に取り組み、情報通信技術を適切に活用して新しい価値の創造を目指して取り組むことができる

情報活用の実践力

情報社会の有効性と問題点を認識し、主体的に判断して行動することができる

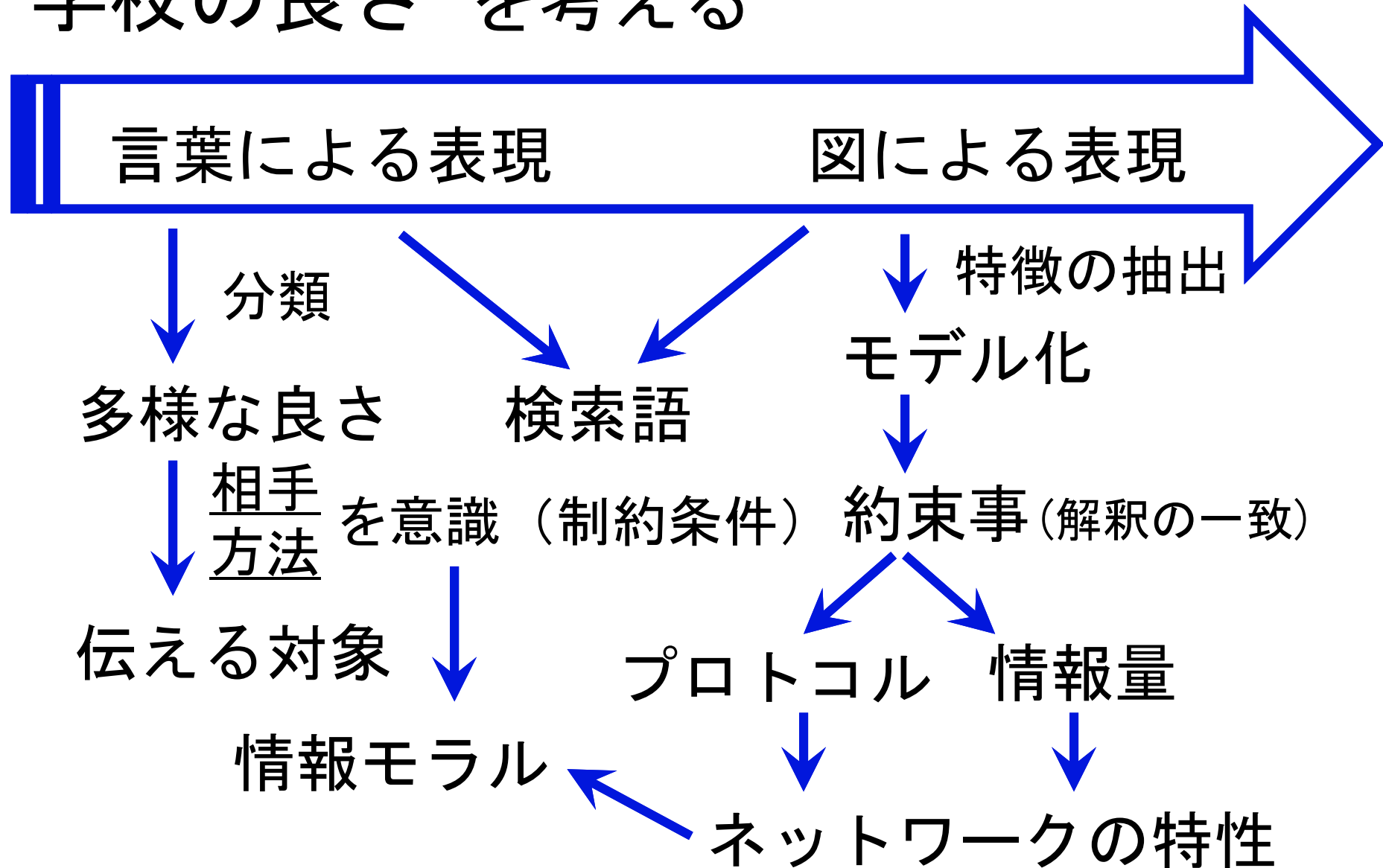
情報社会に参画する態度

情報通信技術の仕組みを理解し、モデル化とシミュレーションなどを問題発見・解決に活用することができる

情報の科学的な理解

【課題の関連性】

学校の良さ を考える



幼保における情報やメディアの活用

【初年次】

【2年次】

【3年次】

情報リテラシー

メディア活用論Ⅰ
メディア活用論Ⅱ

こどもを対象とした
教材開発論
教材開発演習
放送番組論
情報測定評価論

教育方法学
観察と分析

見方・考え方を構成する要素とその関連付け

今後に向けて

現実の制約を解消する方策

関連科目との連携

個々の科目ではなく、カリキュラム

私情協のガイドライン を踏まえて

領域固有の

見方や考え方, キー概念

} すり合わせ
非常勤も含めて

効果の検証、目標達成の測定



B-16

情報教育ガイドラインの実施にかかわる
諸課題についての一考察

波多野和彦（江戸川大学）
中村 佐里（江戸川大学）
三尾 忠男（早稲田大学）

ありがとうございました